

風とライオン

The Wind and the Lion

鑑賞日：2016・10・3

制作 1975 年 米

上映時間 119 分

監督 ジョン・ミリアス

脚本 ジョン・ミリアス

主演 ショーン・コネリー、キャンディス・バーゲン

(あらすじ)

1904 年のモロッコ。米、独、仏、英の利権を狙う横暴なやり方に怒ったリフ族の首長ライズリー（ショーン・コネリー）は、馬賊スタイルの集団を率いて港町タンジールの瀟洒なアメリカ人の豪邸を襲い、容赦なく使用人を殺し、女主人のイーデンと二人の子供を人質として連れ去った。モロッコの当主のサルタンは列強のいいなりになっていたため、ライズリーは三人の誘拐と身代金の請求でサルタンを苦境に陥れようとするのが狙いであった。一方、アメリカ合衆国では第 26 代大統領セオドア・ルーズベルト（ブライアン・キース）は、この事件をモロッコにおける利権の拡張と自分の次期大統領選挙に利用しようと画策し、海兵隊をモロッコに派遣する。ライズリーは人質 3 人を連れて移動するが、山地の本拠に監禁されたイーデンは脅えながら、気の強いところを見せている。イーデンは一族の一人を買収して子供たちと逃亡するが、案内した男は海岸で彼女たちを別の山賊一味に引き渡す。そこへライズリーが現れ、激闘の末、斬りまくって救いだした。

合衆国のタンジールの領事がモロッコの太守を訪れ「人質をすぐ帰すように」と要請したが会談は不調に終わった。合衆国の海兵隊ライフル 2 個中隊が直ちに上陸し、タンジールの町を行進し、サルタンの宮殿に向かい、激しい銃撃戦の末、サルタンは捕えられた。サルタンは「アメリカ側に多額の銀貨を払い、リフ族の領分から、外国の軍隊をすべて撤退させ、ライズリーと部下たちが町に入ることを許す。その代わり人質はアメリカ側に引き渡す」との約束が成立し、イーデン親子はアメリカ側に引き渡された。しかしライズリーはドイツとフランスの軍隊に捕えられた……

(解 説)

実話を元にジョン・ミリアスが脚本を書き、ミリアスが監督した。題名の『風』はルーズベルト、『ライオン』はライズリーを意味し、海を隔てた両者の対決がこの作品のモチーフになっている。監督のジョン・ミリアスはアクション映画の名手であり、「七人の侍」の黒澤明監督を崇拝し、今回の映画でも開巻のタンジールの市内を疾走する荒馬のシーンやいくつもの立ち廻りシーンにもその影響が見られている。ショーン・コネリーも重厚な演技で、指導者としての貫録を示し、また、C・バーゲンも凛々しく振舞うアメリカ婦人を好演し、ライズリーに対する当初の恐怖心から淡い恋心を抱くようになる心の変化を巧みに演じている。